

「全国保育問題研究協議会

— 第33回 —

夏季セミナー」

今、子どもたちの

絵本
あそび
劇づくり

文学

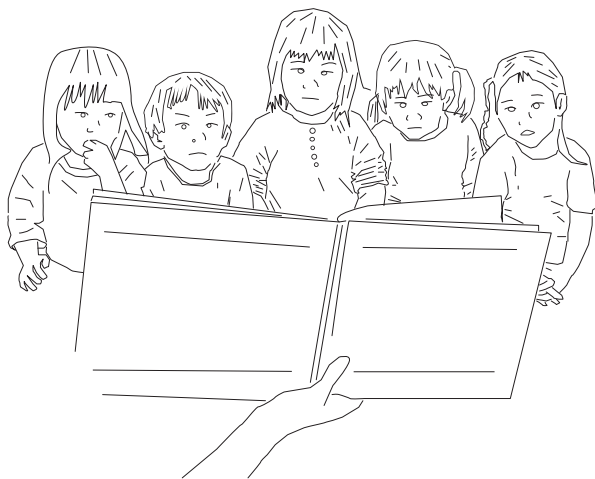
を 考 え る

文学分科会がはじめて設けられたのは、1974年の第13回全国保問研集会です。1991年の第8回夏季セミナー「乳幼児の文学教育」では、それまでの文学分科会の議論を整理しました。その基調報告によれば、分科会としての共通理解は、「同じ作品を鑑賞するという、みんなで共通の体験をすることで、互いに『共感』しあう喜びを味わうところに、集団保育の中での文学教育の意義がある」ということ、課題は、「<鑑賞＝認識>、<劇あそび・劇づくり＝表現>といった図式的な解釈を生み、『認識』と『表現』活動とのあいだのダイナミックな連関が、見失われがちだった」ことでした。

それから25年、「認識と表現—文学」分科会は多彩な実践ときびしい討議のなかから、「認識と表現」という言い方は「認識は個人のもの」という考え方を超えるキーワードであり「仲間とともに発見していく認識」「仲間のために生かせる認識」を大切にする、「認識」と「表現」とは切り離せないものであり、絵本を楽しむのは「認識」の領域、劇あそび・劇づくりが「表現」の領域と区別するものではないこと、これらを確認してきました。

こうした蓄積をもとに、今回の夏季セミナーは二つの内容で構成しました。ひとつは、「絵本の時間を楽しむ」、もうひとつは、「絵本から展開する劇づくり」です。

今、生まれたときからインターネットやPCがあり、乳児でもひとりで端末を操作し、ひとりでデジタル絵本や動画を見て、触って、動かせる時代です。子どもをとりまく絵本や幼年文学にかかわる文化は大きく変化しています。あらためて、大好きなおとなにみんなと一緒に絵本を読んでもらう楽しさ、そこから展開するあそびや活動、劇あそび・劇づくりなど自分たち自身で創る想像の世界の魅力を広めていく必要があります。多彩な報告に、あなたの保育のヒントがいっぱいある企画です。たくさんのご参加をお待ちしています。



2016年

8月27日(土) 12:00 受付開始 12:45～18:30

28日(日) 9:15～12:15

兵庫県神戸市神戸勤労会館 7階大会議室

参加費 7000円・学生3500円 定員200名 先着順 定員になり次第締め切り

申込締め切り日
2016年
8月19日(金)

1日目 絵本から展開 する劇づくり

- ◇ オープニング 兵庫保問研のみなさん 12:45～
- ◇ あいさつ・事務連絡 全国保育問題研究協議会 代表 西川 由紀子 13:00～
- ◇ 基調報告 東京保問研 田代 康子 13:10～

劇づくりは、それぞれの園の劇の文化や考え方によっていろいろな取り組み方があります。あまりの違いに、自分が劇づくりをする時の手がかりを見つけるのが難しいという状況もありました。そこで今回は、劇づくりの論議を大きく進めることをねらいました。特徴的な劇づくりを進めている実践者それぞれに共通の枠組みで整理していただき、劇づくりで、保育者は何をねらい、どのような点に注目し、子どもたちが劇的表現を深めていくためにどのように指導するのかという、劇づくりの過程に焦点をあてて考えます。

13:40～ 大阪保問研・公立幼稚園 お話の世界を体で楽しむ子ども達 甲メ由利子 『おおかみと七ひきのこやぎ』

明るく元気な、幼稚園年中組の子ども達の実践です。体を動かす事が好きで、絵本も大好き。静かになるのは絵本を読んでもらっている時というクラスです。4月から色々な絵本を読んできました。そのたびに本の中の虫や動物になって遊ぶことが大好きになりました。12月に『おおかみと七ひきのこやぎ』を読むと早速子ども達は狼や子やぎやお母さんやぎになって、ごっこ遊びを始めました。自分で作ったやぎのお家のドアを開けたり閉めたりして楽しんで遊びました。この遊びは生活発表会の劇遊びと連動していきました。子ども達はいろいろな登場人物になって身ぶり表現を楽しみました。その中で登場人物の思いや気持ちを自分の事として感じ、最後のページに込められた大切なメッセージに気付いていきました。

14:10～ 愛媛保問研・新田保育園 『たつこのたろう』の劇に取り組んで 福元恵子

憧れのうちゅう組（年長）になった33名がたつこのたろうの劇に取り組みました。たつこのたろうの優しさ・たくましさ・勇気を感じ、みんなで劇を作る事で、仲間と協力する事の大切さや自分に自信を持つてほしいと思えました。

子どもたちと一緒に絵本を読みこみ紙芝居を作ったり、保育園の近くの山あいを散歩して、たつこのたろうの世界をみんなで想像してみたりしました。りゅうになったお母さんの気持ちや、お母さんを探すたつこのたろうの気持ちを考えたりしていきました。また、大道具小道具も自分で作っていきました。

劇に取り組む子どもの様子や、発表会の子どもたちの様子などの報告と共に皆さんと一緒に学び合いたいと思います。

14:40～15:00 休憩 20分

15:00～ 兵庫保問研・おさなご保育園 5歳児の劇づくり 龍本智子

『森は生きている』の絵本を題材に、5歳児クラスで取り組んだ“劇づくり”の実践です。

5歳児にしかできない劇づくりの中で、自由な想像力、創造性、自然や社会そして文化の理解、仲間のなかで自らの思いを主張し、また仲間の気持ちを思いやる力などが育まれてきました。集団の一員として、集団の役に立ちとうとし、仲間関係を深め、3月、生活発表会という舞台で演じ、みんなで作ったという達成感を十分に感じられる取り組みになりました。

○取り組みの中では、子どもの主体性を大事にしなが、劇遊びではなく“劇づくり”まで質的变化をしていく事はたやすいことではありませんでした。

○悩んだり、相談したり、支えてもらいながらの取り組みです。

○劇づくりを通して育つ子どもたちの育ちをみなさんと一緒に考えられたらと思います。

15:30～ 熊本保問研・やまなみこども園 5歳児劇「天のうた」 山並 啓

この劇は斎藤隆介さんの絵本「天の笛」を元に台本を書きました。子どもたちの役は、ひばりや鶯、白鳥、つばめ、すずめ…とすべて鳥です。劇を創りあげてゆくなかで、子どもたちは鳥たちの生き方を体現し、物語の本質をつかんでゆきます。

ひばりは空に立ち止りつつ上昇することをやめない……。みんながあきらめ、この世がいかなる運命になろうとも小さい小さいひばりだけは諦めず、決心して飛び立ち、羽うちをやめず、世界を救います。

年長児37人全員が空を飛びまわっているかのようにつまみまわります。

子どもたちにとっての劇作り、表現とは何か、総合芸術である劇を通して育つてゆく子どもたちの変化を語り合い、みなさんと学んでいけたらと思っています。

16:00～16:20 休憩 20分

16:20～18:15 討論

18:15～18:30 事務連絡 終了

2日目

絵本の時間を 楽しむ

クラスの子どもたちに保育者が絵本を読むことを、以前は「鑑賞」や「理解」というニュアンスでとらえていました。今、絵本を「みんなで楽しむ」ことそのものの意味を問う実践がだされてきています。「絵本を楽しんで読む」意味を考えます。楽しんだ絵本は、その後、子どもたちのイメージの広がりしだいで、あそびや新たな活動へと展開していきます。絵本からはじまって多彩に展開する活動の可能性も考えます。

9:15～ 京都保問研・風の子保育園
みんなで楽しい！お話の時間 佐野賢二郎

保育者が子どもたちに絵本を読む回数は限られています。だからこそ、その時間を大切に、工夫をしながら、絵本の時間がより豊かになるようにと考えてきました。絵本『きれいなほこ』では自分たちが生活の中で経験した事が絵本の内容から呼び起こされ、その絵本をまた見たいと思うようになっていくのだと思いました。1、2歳児混合クラスの頃から楽しんできた組木『3びきのやぎのからがらどん』を朝の会で楽しんで後園庭に出ると大型遊具の吊り橋を「がたん！ごとん！」と渡り始め保育者に視線を向けます。保育者がトロールになって「誰だ～！」こんな風に保育が展開していく事も楽しみにしています。おはなしを見るのが楽しい！と期待し、その時間を友だちと一緒に過ごしたいと思えるようになっていった子どもたちの姿を報告する中で保育園での、おはなしの時間を深めていきたいです。

9:45～ 愛知保問研・公立保育園
「絵本の世界で 大人も子どもも遊びたい」 田境 敦

3歳児クラスのくま組は、元気一杯の20人！あちこちで、ケンカはしょっちゅうですが、絵本が始まると耳と目を絵本に傾けてシーンとなって、読んで大人もビックリです。いろんな絵本を読んでも、他と違ってグッと引き付けられる、ヒットの絵本に出会います。そんな絵本に巡り会うと、よっしゃ！この絵本の世界に飛び込むぞ～！と思うのです。そして、現実と想像の世界が入り交じる3歳児クラスは、絵本の世界を楽しむ遊びがピッタリだと思います。「11びきのねこどろんこ」「おっきよちゃんとかっぱ」「でたっかっぱおやじ」など、ヒットの絵本に恵まれました。パレパレ変装の大人と一緒に絵本の世界に飛び込む子どもたちです。様々な絵本の楽しみ方を皆様と交流し、学び会えたらと思います。

10:15～ 東京保問研・都内保育園
「絵本から始まった憧れの池づくり・高見亮平
お話しづくり」

4歳児クラス24名の子ども達の4月当初はあそびも最後まで続かず、集団として最後までやりきれない状態。しかし、園庭での自由あそびの様子を見てみると、虫探しでは様々な役割で協力しあっている姿があり、それを見て、24人が一つになるヒントはこれだ！と気がつきました。後日、『ターくんのちいさないけ』（福音館書店）の読み聞かせをすると、見ている途中から「いいなあ」「保育園にも池があったら虫がいっぱいくるのに…」とつぶやき始める子ども達。それがはじまりとなり、みんなで池を作り、池に来て欲しい生き物の絵を描くことに発展していきます。また、池の住人カエルにちなんで『おたまじゃくしのチャム』（偕成社）の読み聞かせをすると、子ども達は絵本のつづきを自分たちで考えだし、お話しづくりがはじまりました。お話しは紙芝居として完成を迎え、その紙芝居を劇にするまでに至ります。そんな4歳児クラスの1年間の実践です。

10:45～11:05 休憩 20分

11:05～12:50 討論

12:50～13:00 あいさつ・事務連絡 終了

▼申し込み方法

□ 参加費 7,000 円 (学生 3,500 円)

□ info@zenhomon.jp にメールで申し込みください。(6月1日～8月19日)

複数人まとめても可能です。止むを得ず FAX の場合は、03 (3818) 8026 です。

必ず、一週間以内に返信をします。

(先着順ですので、期日より前でも定員いっぱいの場合にはその旨をお伝えします。

パソコンメールなど拒否設定をはずし、必ず受付番号や振込み方法等の返信をご確認ください。)

□ 申し込みの際には、以下の記載をお願いします。

① 名前(フルネーム) 電話番号(携帯可) 職場電話の場合職場名も表記ください。

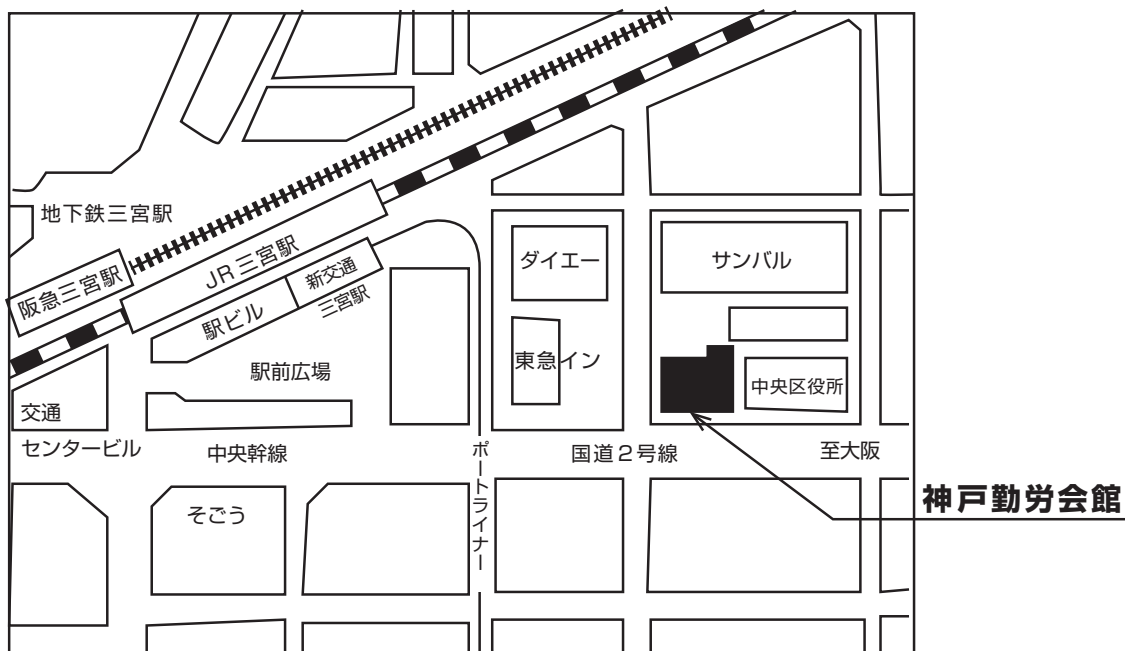
② 都道府県及び保問研に所属の方は保問研名、学生の方はその旨、明記をお願いします。

* 複数で申込の際は、代表者の連絡先名称及び電話番号(携帯可)を記載してください。

□ 宿泊は、各自でご手配ください。(名鉄観光 なんば支店が相談に応じてくださいます。)

◎ 申し込みメール info@zenhomon.jp

◎ 問い合わせ TEL 全国保育問題研究会事務所 03 (3818) 8026



神戸市中央区雲井通5丁目1-2

TEL : 078-232-1881